

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071901153
法人名	株式会社ケアスピリット
事業所名	グループホームやすらぎ
所在地 (電話番号)	福岡県田川市大字伊田426番地 (電話) 0947-42-8830

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年4月23日	評価確定日	平成20年5月26日

【情報提供票より】(平成20年4月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1階~2階
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費) 15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	150,000円	有りの場合 償却の有無	有(5年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
または1日当たり 1,000円				

(4) 利用者の概要(4月14日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 78歳	最低	63歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険田川病院 / 田川市立病院 / 金子内科医院 / すみれクリニック
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長が介護の経験を持ち、その介護経験から独自の理念「人間らしく、自然のままに、地域とともに」を作り上げ、家庭的な雰囲気の中で、入居者の本来の力を引き出しながらケアを行っている。入居者の個性を尊重し、月に一度は職員と1対1での外出を楽しんでいたできるように支援し、買い物・外食・友人に会いに行くなど、入居者の希望に応じた支援を行っている。グループホームの敷地は広く、庭には芝生が植えられている。また、ウッドデッキがあり、入居者は花見や日光浴を楽しんでいる。ホームの周辺は田園地帯で静かな環境を有し、近くに大型スーパーがあり、リハビリを兼ねて散歩や買い物など外出を行っている。開設して4年になるが、下肢筋力の低下予防のためのリハビリや排泄の自立支援に力を入れており、入居者の症状の進行が抑えられ、中には介護度が下がった入居者もあり、自立した暮らしを送るためのリハビリなどに力を注いでいるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では地域との連携が課題となっていたため、地域の区長や民生委員を通じてグループホームについての理解を高めていただくように働きかけを行うなど改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、現状のケアやサービスに関して、職員全員で振り返り、「取り組んでいることや取り組めていないこと」などの事実を確認する絶好の機会としてとらえ取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、家族・地区の民生委員・地域区長・行政職員で2ヶ月に1回定期的に開催している。内容は、現状報告や入居者のケアなどについて報告し意見交換を行っている。運営推進会議での意見は外部の素直な意見として受けとめ、サービスの充実に活かしている。現在、運営推進委員の協力を得て地域との連携を図っている段階にある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	要望箱や苦情対応委員会を設置し、苦情を言っていたただけることは、ホームへの期待感や対等な関係にあることを認識し、要望・意見・苦情は真摯に受けとめ、早期解決に努めると共に運営に反映させている。また、公的な苦情相談窓口も紹介している。面会時には日々の暮らしぶりを報告し、家族とのコミュニケーションを図っている。定期的並びに個々に合わせた家族への報告を実現する意味でも、入居者別に一人ひとりの日常の様子や写真が掲載された「便り」を発行するなど、入居者の状態報告などを伝える工夫が求められる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	法人として自治会に加入しており、地域との接点を高める基盤はある。地域の区長や民生委員を通じて、地域行事への参加などを検討し、理念「人間らしく、自然のままに、地域とともに」の実践に向けて取り組むことが期待される。地域の方々のグループホームの行事の参加は行っており、今後はホームから地域へ出て行くなど一方的にならない交流が求められる。運営推進委員の地域の区長や民生委員を通じて地域への働きかけを行い地域との連携を高めることが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間らしく、自然のままに、地域とともに」の理念を掲げ、地域密着型サービスとしての理念を掲げている。地域の人々の理解を得ながら、自分らしく、地域の中で暮らし続けることを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常時目に付くところに掲示すると共に、入居者への対応時に振り返り、日常のケアに具現化できるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として自治会に加入しているが、地域行事には参加できていない状況にある。地域の方々には餅つきなどのグループホームの行事に参加してもらい交流を高めている。理念に掲げる「地域とともに」の実践として、地域の方々に来ていただくだけでなく、相互に交流・ふれあいの機会を増やしていくことが求められる。		開設4年の実績により、高齢者ケアの専門性を活かし、認知症ケアの相談を受けるなど、地域に開かれた展開などが期待される。地域との交流は、入居者の状態によって難しい場合は、まずは職員が清掃活動に参加するなど、無理のない範囲で柔軟に進められることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は現状のケアやサービスに関して、職員全員で振り返り、「取り組んでいること、取り組んでいないこと」などの事実を確認する絶好の機会としてとらえ取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現状報告やサービスのあり方などを報告し意見交換を行っている。会議での意見は、外部の率直な意見として、その後のサービスに活かしている。		民生委員と入居者家族が兼務で運営推進委員として参加されているが、家族の意向を十分に把握するためには、運営推進会議に他の家族の参加をお願いするなど、家族が意見や要望を言える機会を作っていくことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は協力的で連携はスムーズに行われている。いろいろな物事は相談しながら進めており、サービスの質の向上や透明化に努めている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	実際に権利擁護の制度の利用者もあり、利用にあたっては権利擁護についての学習を重ねており、必要に応じて個々に対応している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、入居者の日々の暮らしぶりを報告するなど、家族とのコミュニケーションを大切に、何でも忌憚なく話し合える関係づくりに努めているが、更に入居者の日々の状態を伝えるために「便り」など文書による報告があれば家族の安心感が高まるものと思われる。		定期的並びに個々に合わせた家族への報告を実現する意味でも、入居者別に一人ひとりの日常の様子や写真が掲載された「便り」を発行するなど、入居者の状態報告などを伝える工夫が求められる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望箱や苦情対応委員会を設置し、「苦情は宝」として受けとめ、速やかな対応を心がけている。また、公的相談窓口の紹介も行っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動はほとんどないが、やむを得ない場合は十分な引き継ぎ時間を設けることで、入居者へのダメージを最小限に防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用は性別や年齢によらず、人柄や介護への情熱を重視している。職員からの参考になる意見はすぐに取り入れるなど、職員一人ひとりの意欲を尊重し能力が発揮できるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者を人生の先輩として尊重することを周知徹底しており、入居者の人権は尊重されている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員のスキルアップを推奨しており、職員の希望に応じて勤務の調整なども行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者同士の交流の機会は、今のところ持っていない。		サービスや職員の質の向上のために、研修の機会などを利用し、情報交換を行うなどきっかけづくりに努め、グループホーム同士の交流を高めていくことが期待される。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者に納得して入居して頂くため、事前に見学や話し合いの機会を設けたり、場合によっては体験入居をしていただくなど、個別の対応を心がけている。1ヶ月ほどの体験入居により入居された方もおられる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	できる事は入居者と一緒に取り組むなど、意欲を失わないように支援を行っている。日々のケアは入居者とのコミュニケーションを何よりも優先し、共に過ごす時間を大切にしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	生活暦・生活環境・その他必要な情報は、ミーティングや担当者会議などにて職員全員で把握できるように努めている。日々のケアの中では、入居者の訴えにはきちんと向き合って対応することを周知徹底している。また、1対1の外出などを利用して、入居者の思いや意向の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	生活歴・身体状況・精神状況・入居者や家族の要望をふまえ、入居者・家族・関係者と十分な協議を重ね、課題を明らかにした上で、入居者がより良く暮らし続けるための介護計画を作成している。今後は更に、職員一人ひとりの気づきや感じたことをケア会議で取り上げ、より深く入居者の思いを掘り下げ、その人らしさが発揮できる取り組みに期待したい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	全ての職員が体調・会話・変化・気づきなど必要な情報を全て日々の介護記録に記入し、変化に気づく体制がある。介護計画は期間に応じて見直しを行い、状況が変化した場合は再アセスメントを行い、新たな介護計画を作成している。時には入居者の力を引き出すために職員が興味がありそうなことをお膳立てするなど、自分がしたいことをやれるような働きかけや環境づくりを期待したい。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	職員と1対1の個別の外出や、同法人が運営する小規模多機能型居宅介護施設が行っている行事や企画への参加など、その時々状況や要望に応じた支援を行っている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	主治医は入居者や家族の意思を尊重して決定している。受診時は普段の生活の様子や病気の経過などを細かく記した情報提供書を主治医に渡し、適切な医療が受けられるように支援している。また、常勤の看護師がおり、主治医の指示をわかりやすく職員に伝えることで職員の医療的な理解を高め適切な対応ができるようにしている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合の対応に係る指針について説明し、理解を頂いている。状態が悪化した際には、医療機関と連携をとり、できる限りのケアを行った上で、主治医・家族・本人の意向に従いつつ、必要な援助を検討している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの人格を尊重し、さりげない介助で自尊心を傷つけないように配慮し記録の書き方も工夫している。記録などの個人情報の取り扱いには全職員で注意している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な一日の流れはあるが、その流れに合わせるのではなく入居者のペースや能力・気持ちに合わせた働きかけを行い、傾聴の姿勢に徹することで一人ひとりの思いを受けとめ個別ケアを実践している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	季節感が味わえるように旬の食材を使用し、嗜好に合った味付けや食欲をそそる盛り付けなどの工夫をしている。1週間分の献立は、飽きがこない様にご飯・麺類・パンと工夫があり、野菜が多く献立に取り入れられ、肉・魚のバランスが取れた食事内容となっている。食器の準備や片づけなどは入居者と職員が行い、食事を楽しんでいただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりのパターンに合わせた入浴支援に努めているが、入浴時間は大まかに決まっており、入居者の希望にそった入浴支援は今後の中で取り組む方向にある。		入浴を拒否する入居者もいる中で、一人ひとりの希望にそった入浴の支援を期待したい。
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の生活歴・個性・価値観を尊重した支援を心がけ、編み物・折り紙・花の水やりなど好きなことを自由に行っていたりするように支援している。月に一度、職員と1対1での外出日を設け、買い物・外食・家族や友人に会いに行くなど、希望に応じた個別の外出を支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日の暮らしの中では、周辺の散歩・買い物・お参りなど入居者の希望や体調に合わせた外出支援を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、入居者の行動の把握に努め、夜間以外は鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	防災訓練は年2回実施しているが、地域の協力などは今後の課題となっている。		運営推進会議の機会を活かし、防災訓練に地域の方々の協力をお願いするなど、地域との連携を図る取り組みが期待される。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養のバランスやカロリーに配慮し献立を作成している。食事や水分の摂取状況を記録し、入居者の状態把握に努めると共に、職員間で情報を共有し必要な支援を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間や廊下は明るくて広々とした造りになっている。また、和室もあり、入居者の作品や写真・花などが飾られ、家庭的な雰囲気を醸し出している。窓から見渡せる庭には、季節の花・菜園・植木などがあり、季節感を感じることができる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には使い慣れた家具や装飾品が持ち込まれ、入居者個々のなじみの空間の工夫がある。また、入居者の希望によっては、仏壇やテレビ・冷蔵庫なども持ち込まれており、安心して生活ができるように配慮されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			